

コンセンサスカンファレンス報告書

令和3年4月17日

第18回日本口腔ケア学会総会・学術大会

「妊婦における口腔ケア」 コーディネーター：西條英人、鈴木紀子

講演内容

「妊婦における歯科検診の重要性について」

井村英人先生（愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室、愛知学院大学歯学部附属病院口唇口蓋裂センター、愛知学院大学歯学部附属病院口腔ケア外来）

歯科医の立場から、歯科の代表的疾について、女性のライフスタイルの中で歯周病にかかりやすい時期について、妊娠中の歯科受診のタイミングについて、歯肉炎予防のセルフケアについて講演いただいた。歯科治療に伴うレントゲン撮影や薬剤の使用について、安全で安心できる情報を提示していただいた。妊婦が歯科の治療対象にならないこと、治療対象となっても重症化しないことが大切だということを提言した。

「妊娠中の適切な口腔ケアは産科合併症を防ぎ母児の健康を守る」

入山高行先生（東京大学 女性診療科・産科）

産科医の立場から、口腔内環境と妊娠合併症との関連、妊娠中の適切な口腔ケアの重要性について講演いただいた。最新データから、歯周病と早産、低出生体重児、妊娠高血圧腎症との関連について説明し、歯科治療に伴う妊娠中に留意すべき点を提示していただいた。妊娠中（授乳中を含む）のどの時期でも非妊娠時と同様に歯科受診をする必要性を提言した。

「妊婦も施設も模索中 妊娠中の口腔ケア」

鈴木紀子（順天堂大学医療看護学部）

助産師の立場から、妊婦と産科施設の現状と課題について調査データをもとに講演をした。自治体の公的補助（歯科無料券）があっても妊娠中の歯科受診率は約6割であった。保健指導を担う助産師は業務が多忙であり、歯科に関する知識に不安を抱えている。妊婦への教育啓発、助産師への教育啓発が必要であることを提言した。

コロナ渦であり、対面ではなく配信によるコンセンサスカンファレンスであった。現在の日本の現状と課題をふまえ、正しい知識を発信し、産科と歯科が連携して口腔から母子の健康を守っていくことが重要である。